平成24･25年度　さいたま市立浦和中学校　教育の情報化　研究委嘱　中間報告書

平成25年3月29日

1．本校の研究課題

「ICTを活用した指導方法の工夫及び改善」

2．研究仮説

「ICTを活用することで、生徒たちの学習意欲が一層高まると共に、より理解を深め、生徒一人ひとりが生き生きと授業に参加するようになる。」

本校は、開校以来全校生徒240名全員にPCを貸与し、生徒達は授業などでいつでも使用出来る環境にある。貸与されたPCを、生徒達は本校独自のMSU(Morning Skill Up Unit)で使用。MSUは、国語、数学、英語の3教科のe－ラーニングで、各自のペースで学習を進めている。また、MSU以外でも、国語などの授業、さらに総合的な学習の時間等、全教科全領域で個人PCを活用した授業を展開している。また、普通教室や特別教室にも無線LANが設置されているため、生徒達は各自のPCをそれぞれ必要とする場所に移動し、校内各所から校内サーバーやインターネットに接続して、データをやり取りすることが出来る。また、全普通教室（6室）に大型情報ボードを配備して、授業に活用している。

教室に保管する生徒個人PC

40名全員がPCを使用しての調べ学習

開校当初入学の1期生が6年間の一貫教育を終えてこの3月に市立浦和高校を卒業し、本校はこの4月で7年目を迎える。そこで、今回の研究委嘱を契機に、改めて本校のICT環境を見直し、必要に応じて整備・増強を行い、職員の研修を通じて、教育活動でのICTの更なる活用を考えていきたい。

3．本校の重点項目

本校のICT環境をさらに活用するために、次の2つの部会に分かれ、それぞれ効果的なICTの活用方法について研究を行っている。

普通教室に配備の情報ボード

（1）協働学習部会…「協働学習の推進」

＝さいたま市ICT活用の重点項目

- 生徒同士の意見交換等（ペアワークやグループワーク）での、PC等情報機器の活用（生徒⇔生徒）
- 視聴覚機材（生徒PCや情報ボード）の活用を含む
- 教師の指導過程での活用（教師→生徒）
- 担当教科…国語、数学、社会

（2）プレゼン部会…「プレゼンテーション能力の育成」

- 生徒のICT活用（生徒⇔生徒、教師⇔生徒）
- 視聴覚機材（生徒PCや情報ボード）の活用を含む
- 教師の指導過程での活用（教師→生徒）

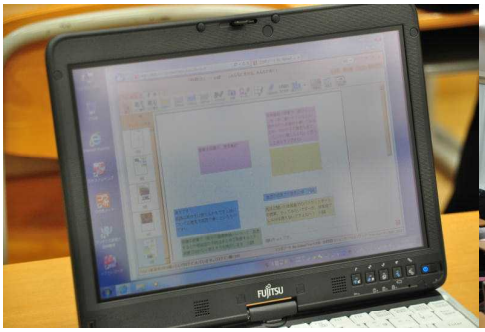
担当教科…英語、理科、体育、音楽

4．平成24年度（1年目）の研究成果

平成24年度の研究成果を3つ紹介する。

（1）新PCの活用に向けた研修

昨年8月に、生徒用240台と職員用全てのPCが一新された。そして、PCやアプリケーションの操作方法に今までと違いが見られたため、職員用と生徒用PCの操作方法、「ジャストジャンプ」、「コラボノート」、「伝わるネット」等のアプリケーションの操作方法を、各社の職員の方々にご来校いただき直接指導を受けた。このPC研修は5回実施し、職員のPC操作と活用能力の向上に寄与した。



みんなの考えをPCで共有

業者の方々によるPC研修

（2）実践事例の作成について

教育研究所のICT活用研究委員会でまとめている「ICT活用実践事例」にならい、本校でも全教科でICTを活用した授業実践を行い、それらを本校独自の「実践事例集」として、教育研究所と同じフォーマットでレポートにまとめて、各教科のICT活用の成果を全員で共有することが出来た。

実践事例集［英語］

（3）研究授業の実施

タブレットPCを操作しながらグループ内で発表

研究協議会

「ICTを活用した協働学習」をテーマに、「協働学習部会」を代表して、2月8日に「3年数学」でICTを活用した授業実践を行い、全員で参観した。情報ボードと生徒個人PCを活用、「学びあいノート」等の活用を学習過程に取り入れ、生徒同士がPCを活用してお互いの考えを深める場面が数多く見られ、ICTの活用の可能性を示すことが出来た。研究協議会では、参観いただいたジャストシステムの社員の方々から操作面でのご意見、そして教育研究所冨田先生からはICTの授業での活用についてご指導いただいた。いずれも今後の研究に大いに参考になるものであった。

5．まとめ

研究委嘱1年目は、新しいPCを含め数多くの場面でICTを積極的に活用し、全員が様々な実践を行うことが出来た。生徒達も、すぐに操作に熟知し効率良く作業を進めることが出来るようになった。今後の課題は、新PC導入に予想以上の時間を費やしたことを踏まえ、より計画的に研究を進め、全員がICT機器をさらに積極的に授業等で活用する姿勢が必要とされる。今まで以上に生徒達が「わかった！」と実感出来る授業実践を全校で積み重ねていきたい。